

留学報告書

～Look Forward: Gained a New Driving Force～

カゼノビア大学
外国語学部生（長期）



私は、アメリカ・ニューヨーク州にある、カゼノビア大学に長期留学生として派遣された。留学を終えて、個人の成長には多くの人との関わりが不可欠であると知った。そして、人との出会いにはご縁があり、それらをどれだけ大切に扱うかによって、人の輪は大きくなったり、小さくなったりするのだと気が付いた。カゼノビア大学での留学プログラムでは、アカデミックな取り組みだけでは無く、多くのアクティビティや、交友関係を通して、人間的に大きく成長することができたと実感している。

大学は閑静な高級住宅街の一面にあり、治安も良く、自然豊かな環境である。町に住む人々は大変気さくな方が多く、特に年配のご婦人からは初対面にも関わらず、よく話しかけられた。ある時、ALDI という食料品店でご婦人に突然話しかけられ、とても驚いたことがある。始めはご婦人が何を話しているのか分からなかったが、落ち着て話を伺ってみると、その方は不眠症で常に睡眠薬を常用していたが、ここで販売されているチョコレートを食べるようになってから、薬が不要になった、という事であった。またある時は別の婦人に、数種類ある玉ねぎの違いは何だろうか、と話しかけられた事もある。日本では、よほどの事がない限り、そうして話しかけられる経験が無かったので、文化の違いに触れられたような気がした。またレジでは必ず短い会話がなされ、初めの頃は返答に困っていたが、留学プログラムが終わる頃にはそうした短い会話にも対応できるようになった。

カゼノビアの町には幾つかのレストランやカフェ、土産物ショップなどがあるだけで、週末に遊びに行けるような場所は限られていたが、週末も課題などを行う必要があり、時間も無かったのでとくに不便さは感じなかった。



8月にカゼノビア大学の学園祭が行われた。それぞれの学部の教授たちがブースを設置し、さまざまなイベントが行われた。左の写真は、バイオ・ブリッツというブースで、生物学のヨーク教授の主催で運営されていた。このブースでは、魚釣り、カヤック体験、カゼノビア湖の藻採集体験、魚観察、箱型ボート体験などがあり、体験を通し



て地元の水生生物について学ぶことができるように工夫されていた。ヨーク教授はまた、釣りクラブの顧問であり、サーモンリバーへの鮭釣りや、アイスフィッシングという穴釣りを企画してくださった。余談であるが、釣りクラブでは釣った魚は食べることなく、メジャーで体長を測り、川へ戻していた。このあたりの地域では、釣りはスポーツ的な感覚であるようであった。



次に授業について紹介したい。受講した講義は次の通りである。秋学期：Principles of Management、Academic Writing I、Beginning Japanese I、FYS Kiln-Formed Glass、Design and Color Theory、ST Amer Cult and Lang Immers 春学期：Global Business、Sm.Busi. Mgmt./Ownership、Business Communications、Microeconomics

左の写真はFYS Kiln-Formed Glassで制作した作品で、日本に持ち帰ったものである。カップを作り、余ったガラスをカットし、加工しお皿にした。カップの作成には元となるガラス板の作成に1ヶ月以上を費やし、ドロッピングと呼ばれる手法を使い、窯で半日以上加熱する必要があった。このクラスでは、モノづくりの醍醐味や苦労、楽しさを経験する事ができた。また授業を担当されているキム教授は留学生の対応に慣れており、温かく優しい方で、安心して授業を受ける事ができる。NGUから留学に行く生徒には是非お勧めしたいクラスである。



左写真はGlobal Businessのクラスメイトと撮影した。このクラスでは、アメリカ国内でグローバルに企業を展開させるときのメリットやデメリットを始め、複数ある企業形態の特徴、アメリカの産業がどのように変遷してきたのかなどを学んだ。授業にはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどのアクティブラーニングが取り入れられ生徒がコミュニケーション能力を育てられるように工夫されていた。受講している生徒の大半がビジネスを専攻している学生のため、授業の内容には経済学やビジネスマネジメント、オーナーシップの分野も含まれた。Global Businessのアダモ教授は、他に異文化交流などのクラスも担当されており、留学生である私をサポートしてくださり、学びやすい環境を提供してくださった。またクラスメイト達は暖かく受け入れてくれて、とても感謝している。授業を通して、新しい

知識を得ると共に、実践的な生きたコミュニケーションを日々、学んでいる実感があった。



サンクスギビングでは、友人宅に招待され、貴重な体験をさせて頂いた。友人のおばあ様が料理してくださったターキーは、オーブンでソースを時折かけながら6時間以上焼かれ、とてもジューシーに仕上がっていた。他にも定番のマッシュポテトや、いくつかの料理

が用意され、それらは大皿に載せられて、ビュッフェ形式で頂いた。食後には6種類程の様々なパイを焼いてくださり、夜にはみんなで数種類のカードゲームを楽しみ、思い出に残る1日となった。



左写真はスノーチュービングに行った時に撮影した。日本語クラスの Kaori LaClair 先生に連れて行って頂いた。NGU の3名の他に、来学期日本に留学予定のコーナー君も同行した。スノーチュービングは、頑丈な浮き輪に載って、丘の頂上から滑るアクティビティで、写真のように座って滑る他に、浮き輪の上うつ伏せに寝て滑る方法がある。また、二つの浮き輪を連結さ

せて二人で滑る事もでき、スキー場のスタッフが後ろから押してくれた。スキー場までは大学から車で15分程である。



Kaori 先生には他にもクリスマスツリー伐採体験や、シラキウス大学の日本語学習者との交流会や食事会、日本祭りやカゼノビア大学での Japanese event などを企画して頂いた。写真はシラキウス大学で開催された日本祭りにお抹茶ブース担当として参加した時のものである。また、同時開催されていた手巻き寿司

作りを体験させていただいた。お抹茶ブースでは、先生の用意してくださった赤い布を敷き、日本から持参した茶道具で呈茶をした。シラキウス大学で日本語を学んでいる学生のみなさんは、日本の文化に強い関心を持っており熱心に参加してくれ、その姿に心を打たれた。お祭りを通して、新しい友達もでき、みんなで日本で再開する約束をした。

Kaori 先生はNGUから留学していた私たちを非常に気にかけてくださり、サポートをしてくださった。帰国の際には、シラキウスにある空港まで見送りに来てくださり、搭乗口までの道順で迷わなくて良いようにサポートしてくださった。また飛行機の中でコロナ

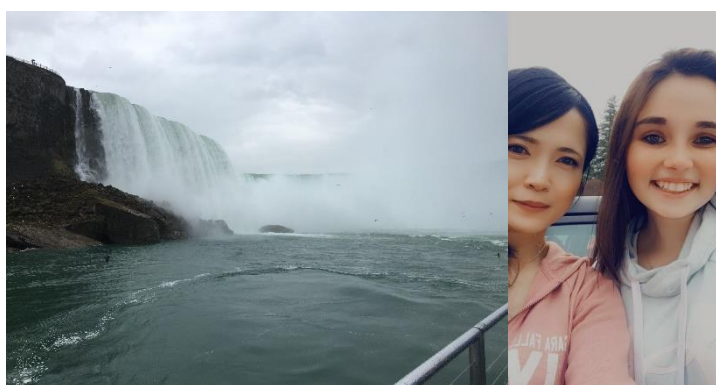
ウイルスに感染する事例が多く発生していたことから、100%ウイルスをカットするKN95 マスクや、殺菌スプレーなどを持たせてくれた。Kaori 先生は非常に活動的で情熱のある方で、先生にお会いできた事は本当に幸運であった。先生との出会いは、今後の自分の人格形成に大きく影響を与えるだろうと思う。



左写真はファッションショーを見に行ってきた時のものである。このファッションショーはカゼノビア大学の全てのファッション専攻の生徒の1年間の取り組みを紹介する目的があり、中でも4年生の designers と merchandisers の集大成を発表する場となっている。今回はショービデオを作製し、パーティー形式で視聴する形が取られた。場所は大学近くのホテル Hampton Inn & Suites Cazenovia のパーティー会場で行われ、多くの学生、教授、関係者が参加した。ショーは全て学生主導の元で運営され、2学期をかけショービデオの計画を立て、実際の撮影には2ヶ月程が費やされたとのことであった。財務チームに所属していた学生の一人は、最も困難な部分

と最大の苦労について、ショーのレセプションの予算を立てることであったと話してくれた。当日は、すべての参加者がドレスアップして来場し、ショービデオの視聴会は非常に華やかな雰囲気の中で行われた。

カゼノビア大学の留学で良かった点は、さまざまな学部 of 学生の取り組みを間近で見られた事である。大学には、Accounting、Business、Criminal Justice/Homeland Security、Fashion Design/Merchandising、Equine Management (馬)、Studio Art など、24 の学部がある。所属する学部によって、学生のカラーが出ており、面白いと思った。



(ナイアガラの滝にて)

(別れの日)

今回の留学を通して、人と人との繋がりのご縁があつてこそだと実感した。2年前、コロナウイルスによって留学が延期になっていなければ、私はカナダの別の大学に派遣されており、この留学で出会う事になる多くの人たちと会う事は無かつたと思うと感慨深いものがある。また、

1年間留学が延期になったことにより、受講する科目選びにも大きな影響があつたように感じている。大学2年生の自分は、3年生の自分とはまったく違った科目を選んでいただろうと思うと、コロナの影響によって、私たちの人生の方向も変わっていったように思った。しかし、それは決して悪い事ばかりではなく、私にとっては自分の人生を深く考

える良い機会となった。私はこれまで英語学習のために英語で映画やアニメを見たり、洋楽を聴いたりしていたが、半分は義務的な気持ちからであった。しかし、留学を終えて、そうしたものに対して心から楽しめるようになった。これは留学を通して出会った友人の影響であると言える。また、これまであまり必要性を感じなかった日常会話についても、初めて自分の中でしっかり学びたいという気持ちを持つことができた。私にとってこの9ヶ月は人生のターニングポイントになったと言えるだろう。特に、価値観や考え方が大きく変わり、これまでに思いつかなかったような視点や視野を持てるようになった事は重要である。この変化は、この先20年の自分の人生に影響を与えるだろうと確信している。将来はアメリカで暮らしたいと思う。これが私の新たなドライビングフォースであり、Look Forward、自分の未来が楽しみである。